



きらきら Eye ランド

JA 庄内みどり

安全・安心をお届けいたします

グリーンプロジェクト情報 第 8 号

発行：庄内みどり農業協同組合
協力：酒田農業技術普及課作溝・中干しの徹底を！
生育診断を実施し適期適量の穂肥を！！

6 月 2 4 日現在の生育は田植え時期によって圃場間で差が見られますが、生育量は確保されています。降雨の影響により中干しが不十分な場合は、暗渠排水を利用しながら引き続き中干しを徹底し、適期に穂肥ができる稲姿に仕上げましょう。仙台管区気象台の 1 カ月予報（6 月 2 5 日発表）では、平年よりも気温が高くなると予想されています。気象変動に耐え抜く稲体づくりへ向けた対策の一環として、**作溝・中干しの徹底、ケイ酸資材を積極的に施用しましょう。**また、これからは葉いもちや斑点米カメムシ類が発生する時期となります。農道・畦畔の草刈り、圃場内の雑草（ヒエ・ホタルイ等）の除去を徹底し、病虫害発生未然防止を心がけましょう。

◎ 6 月 2 4 現在の生育状況（酒田農業技術普及課生育診断圃データ）（ ）内は平年対比

品 種	草 丈	茎 数	葉 齢	葉色 (SPAD)
は え ぬ き	41.7 cm (96)	792 本/㎡ (137)	9.4 (+0.5)	40.4 (−0.3)
つ や 姫	39.7 cm (87)	600 本/㎡ (132)	9.7 (+1.1)	41.4 (+1.5)
雪 若 丸	41.0 cm (108)	693 本/㎡ (115)	9.3 (+0.3)	44.5 (−0.4)

技、其の一 作溝・中干しの徹底を！

6 月下旬の降雨の影響により中干し程度が不十分な場合は、**穂肥までに作溝の手直しを行い、暗渠排水を利用し、「小ヒビが入る程度の中干し」を確実に実施しましょう。**

幼穂形成期から穂揃期にかけては水分と酸素を最も多く必要とします。中干し後は、走り水により徐々に慣らし、出穂前まで間断灌水（2 日湛水状態、2 日落水状態を、くりかえすこと）を続けましょう。

用水不足時の灌水を効率的に行うためにも、仕上げ作溝は必ず行いましょう。（特に高温・強風時における灌水を速やかに行うことができ、また飽水管理もできるため稲体も保護されます）

※ 中干し後の KSK28 の施用方法

ケイ酸資材（KSK28）の施用は高温対策に有効です。下記を参考に施用をしましょう。

①初期水位を 1～2 cm 程度確保する。（水面はヒタヒタ状態にする）②水尻は閉じて 30 a に 4.2 kg 1 個（10 分程度）を水口から流し込む。③流し込み後も入水を続け、水位 8cm 程度で止水。④流し込み後は 3～5 日程度止水し落水しない。

技、其の二 カメムシ対策はこまめな草刈りで！

山形県病虫害防除所の発生予察情報（6 月 2 4 日発表）では、斑点米カメムシ類の発生時期は「早い」、発生量は「多い」と予想されています。カメムシ類の増殖を抑えるため「こまめな草刈り（雑草が穂をつける前の草刈り）」と「圃場内の雑草（ヒエ、ホタルイ等）の除去」を徹底し、地域ぐるみで発生密度の低減を図ることが重要です。

☆葉いもちの発生に注意！！

今後の天候次第では葉いもちが発生する恐れがあります。特に葉色が濃いところや昨年発生した圃場では注意深く観察し、発生が確認されたら最寄りの営農課へご相談ください。

技、其の三 出穂予想(6月24日現在)

☆今年の出穂期は、“平年より 2～4 日早い”と予想しています。

ふくひびき	ひとめぼれ	雪若丸	はえぬき	つや姫
7/26 頃	7/31 頃	8/1 頃	7/31 頃	8/6 頃

※やまがた米づくりナビ生育予測、現場での状況を基に予想。

技、其の四 穂肥は的確な生育診断で適期に適量を！

穂肥が適期にできる稲の条件は①葉色が低下している②葉伸びしていない③茎数がすっきりしていることです。（下表参考）

品 種	葉色	草丈 (cm)	茎 数 (本/㎡)	穂肥対応（N成分 kg/10a）					
				-30 日	-25 日	-20 日	-18 日	-15 日	-10 日
は え ぬ き	4.8	60	630 以下		2.0		(1.0)		
はえぬき(低地力)				1.0～1.5		1.5～2.0			
ひとめぼれ	4.5	60 以下	630 以下			1.5			(1.0)
雪 若 丸	5.2	55 以下	670 以下		1.5				
つ や 姫	4.8	60	550 以下	1.5		みどり特栽培穂肥 028 号			
つや姫(高地力)					1.2	化成肥料 15-4-15、らくらく 522、みなくち NK-C20			
ふくひびき	5.0	68 以下			2.0				(2.0)

※（ ）内の数値は、状況に応じて実施する。

※葉色板（フジカラースケール）と葉緑素計（SPAD）の換算値（目安）

{(SPAD 値) + 10} ÷ 10 = 葉色板の値 （例）(38+10) ÷ 10 = 4.8 ← 葉色板の値

技、其の五 葉色が濃い稲への対応！

はえぬき(11.0 葉期) 出穂前 25 日の葉色	5.0 以上⇒ N 成分 1.5 kg/10a に減肥して施用する。ただし(4.0 以上) 葉色 5.5 以上の場合、穂肥は行わない。(※ケイ酸資材を施用)
ひとめぼれ(11.5 葉期) 出穂前 20 日の葉色	4.8 以上⇒ 葉色低下を待って対応、ただし出穂前 10 日になっても(3.8 以上) 葉色が濃ければ穂肥は行わない。(※ケイ酸資材を施用)
つ や 姫(10.5 葉期) 出穂前 30 日の葉色	4.9～5.1 ⇒ N 成分 1.0 kg/10a に減肥して施用する。(3.9～4.1) 5.2 以上⇒ 25 日前までに適正葉色まで低下しない場合、穂肥は(4.2 以上) 行わない。(※ケイ酸資材を施用)

※猛暑をはじめ気象変動に耐え抜くためケイ酸資材の積極的な施用を！！

技、其の六 倒伏軽減対策！

生育が過剰となり倒伏が懸念される場合には、倒伏軽減剤を使用します。

○ひとめぼれ

稈長 8 2 cm 以上となり、倒伏が懸念される出穂 2 0 日前（1 1. 5 葉期）の稲姿

草 丈 (cm)	葉 色	生育量 (cm×本/m ²)	1 株当り本数 (7 0 株植え)
6 2	5. 0	3 9, 0 0 0	3 0 本以上

◆使用薬剤

薬剤名	使用時期	使用量	備 考
ロミカ粒剤	出穂前 2 5 ～ 1 0 日	2 ～ 3 kg/10 a	上位節間伸長抑制
スマレクト粒剤	出穂前 2 0 ～ 7 日	2 ～ 3 kg/10 a	

※特別栽培米は、倒伏軽減剤及び倒伏軽減剤入り肥料は使用できませんのでご注意下さい。

※スマレクト粒剤の重複散布や多量散布は、後作物や次年度の作物に影響する場合がありますので使用量に注意しましょう。

※窒素肥料が使用できない圃場には、ケイ酸資材を施用しましょう。

<直播情報>

◎湛水直播(鉄コーティング直播)は中干しの時期に入りました。根張りを良くし、耐倒伏性を高めるため、中干し開始の目安となる 470～530 本/m²を確認して、時期を逃さず実施して下さい。茎数不足の圃場では、浅水管理で引き続き茎数確保に努め、遅くとも 9 葉期までには中干しに入りましょう。

<大豆情報>

◎降雨時は、こまめに圃場を見回り、早期に明渠の手直しなどを実施し、停滞水の排水に努めましょう。大豆の根を湿害から守るため、できるだけ速やかな排水対策を行いましょう。

◎天候に合わせ、**中耕(培土)**を遅れずに実施しましょう。**(雑草対策も！)**

◎食葉性害虫やアブラムシ類の発生が心配されます。高温・乾燥で発生が急増した過去の例もありますので、圃場・生育観察で早期発見・被害防止に努めましょう。

<農薬飛散防止対策について>

残留農薬等のポジティブリスト制度に伴い、粉剤等で防除を実施する場合は周辺の園芸作物の種類・収穫時期等を事前に把握し、農薬の飛散防止・低減対策を確実に行いましょう。

ドリフト(飛散)が原因で農産物が流通(出荷・販売)不可になった場合、原因となった農薬散布者の責任となります。散布時は風速・風向に注意して下さい。

やまがた米づくりナビ

生育診断(穂肥)マップ

いよいよ更新！

今すぐチェック！穂肥巡回でも使いましょう！



※不明な点は最寄りの JA 又は酒田農業技術普及課まで

園芸情報

梅雨入り・梅雨明け後の長ねぎ栽培管理について

6 月 20 日に東北南部の梅雨入りが発表され、その後不安定な天候が続きました。このような天候・気温は病気が発生しやすくなります。また、例年より気温が高いことで害虫の動きも活発になっているため、梅雨入り・梅雨明け後からの管理・対策を行いましょう。

<梅雨時期>

○明渠や暗渠の確認などを行い、圃場の排水対策を徹底してネギが長時間、水に浸かっている状態が無いようにしましょう。

○梅雨時期はべと病など病気の発生が多くなります。晴れ間を見て殺菌剤で予防防除を行いましょう。

<梅雨明け後>

○ねぎの生育に合わせて土削り、土寄せを行いましょう。土寄せ時は殺菌剤の散布を行い、軟腐病の発生を防ぎましょう。土寄せ時に追肥を行う際は、生育を見ながら窒素成分で 1 回あたり 2～3kg/10a を施用しましょう。

※過剰な施肥は軟腐病を誘発しますので注意しましょう。

また、雨が続くと根が弱りますので、亜リン酸入り液肥などを活用して、根の回復の促進を行いましょう。

○雑草の発生が多くなりますので、小さいうちから除草を行いましょう。

※土寄せ作業は朝方や夕方などの涼しい時間帯に行いましょう。高温少雨の天候が続く場合は、少量の土寄せを小まめに行いましょう。

○梅雨明け後の温度上昇で、葉先枯れが発生する可能性があります。似たような症状で葉枯病がありますので、症状を観察して適切に対応しましょう。(葉先枯れは根のストレスにより発生します。葉枯病は菌によって感染し、症状が進むと黒い楕円形の病斑が発生します。)

○高温時は害虫の発生が増加しますので、適期防除を行いましょう。例年、ネギアザミウマ、ネギハモグリバエが発生するほか、シロイチモジヨトウの発生が多くなりますので注意しましょう。

☆7 月に入り、生育の早い所では収穫が始まる時期となります。仕上げの止め土をしっかりと行い、軟白長(夏ねぎは 25 cm～)の確保を目指しましょう。10 月以降に収穫を行う方は、夏越しができるように早めの管理を心掛けましょう。

注意！毎年ドリフト被害の相談があります。ドリフトが原因で農産物の流通(出荷・販売)が不可能になった場合、原因となった農薬散布者の責任となります。畦畔及び転作田の除草剤(茎葉処理液剤)を散布する際は周辺作物に十分注意し、風のない日と時間帯を選び、ドリフト低減ノズルと飛散防止カバーを必ず使用しましょう。

★次号の発行は7月17日です！